

(7) キウイフルーツ

〔果樹類>落葉果樹>キウイフルーツ〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
花腐細菌病	休眠期	<ul style="list-style-type: none"> ・樹皮や休眠芽で越冬した細菌が雨滴で蕾に飛散し、がくの裂開とともに花蕾の中へ侵入し、花では不受精や奇形果・落果を生じる。 ・開花期に、雨が多いと発生が増加する。
	生育期 (4月中旬～下旬)	
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・強風が吹き抜ける場所での栽培を避け、防風対策を行う。 ・せん定枝は、園外に持ち出して処分する。 ・通風・採光・排水を改善し、多肥を避けて、落ち着いた樹勢で管理する。 ・開花の1か月前(3月下旬～4月中旬頃)に、主幹部を5mm幅で、環状はく皮する。
かいよう病	【共通】	<ul style="list-style-type: none"> ・品種によって2倍体・4倍体・6倍体に分かれるが、2倍体品種(「紅妃」等)は抵抗性が低く、6倍体品種(「ヘイワード」等)は抵抗性が高い傾向にあるので、品種選定で抵抗性(り病性)に注意する。 ・病原菌にはpsa1～5の系統があり、中でもpsa3で病徴や感染力が著しい。
	生育期 (4月中旬～下旬)	<ul style="list-style-type: none"> ・罹病した枝幹部から2～4月に暗赤色の細菌液が漏出し、雨滴で飛散する。 ・気孔や傷口から菌が侵入し、葉での発病は4～6月に最盛期となる。 ・春や秋の強風雨で、広範囲に伝染する。冬季の低温で、発生が助長される。
	落葉期～休眠期	<ul style="list-style-type: none"> ・せん定による切り口は菌が侵入しやすいので、トップジンMペーストを塗布しておく。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・強風が吹き抜ける場所での栽培を避け、防風対策を行う。 ・発病枝のせん定に用いた鋏、鋸は消毒して次の健全樹に用いる。
灰色かび病	開花期～落花期	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨期の多雨や過繁茂状態で、発生しやすい。 ・傷果や濡れ果は、収穫しない。
果実軟腐病	着果期 6～7月および9～10月	<ul style="list-style-type: none"> ・貯蔵中に発病した果実は、すみやかに除去する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季のせん定および夏季の徒長枝除去により、通風、採光を良好に保つ。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	<ul style="list-style-type: none"> ・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
カイガラムシ類 カイガラムシ類 幼虫	5月中旬 7月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>休眠期防除参照</u> ・休眠期は石灰硫黄合剤またはマシン油乳剤を散布する。
	9月上旬	
カメムシ類	果実肥大期	<ul style="list-style-type: none"> ・カメムシ類は夜間活動性なので、日暮れ前の防除が効果的である。
キイロマイコガ	果実肥大期 成熟期	<ul style="list-style-type: none"> ・果実接合部やへた部等に糸を張った巣の有無で、発生状況を確認する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・果実が重ならないよう、適正摘果に努める。

キウイフルーツ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									かきよう病	果実軟腐病	花腐細菌病	灰色かび病	切り口及び傷口のゆ合促進	
キウイフルーツ	ICボルト-66D	銅水和剤	M1		収穫後～発芽前	-	200～700% /10a	散布	25～50倍					
キウイフルーツ	アグリマイシン-100	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	25,41		落花期まで	3回以内	200～700% /10a	散布	1000倍		1000倍			
キウイフルーツ	アグリレプト水和剤	ストレプトマイシン水和剤	25		収穫90日前まで	4回以内		散布	1000倍		1000倍			
キウイフルーツ	カスミンボルト-	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		休眠期	4回以内	200～700% /10a	散布	500倍		500倍			
					【A】				1000倍		1000倍			
キウイフルーツ	カスミン液剤	カスガマイシン液剤	24		収穫90日前まで	4回以内	200～700% /10a	散布	400倍		400倍			
					収穫後～落葉前まで	1回	【a】		樹幹注入	200倍				
キウイフルーツ	ストロビートライフロアブル	クロナキシメチル水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700% /10a	散布				2000～3000倍		
キウイフルーツ	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		収穫60日前まで	7回以内	200～700% /10a	散布		500～1000倍				
キウイフルーツ	トップジンMベスト	チオファネートメチルベスト剤	1		【B】	3回以内		塗布						原液
キウイフルーツ	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫前日まで	5回以内	200～700% /10a	散布		1000倍				
キウイフルーツ	ナリアWDG	ピラクトロピリン・ボスカルド水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200～700% /10a	散布		2000倍		2000倍		
キウイフルーツ	フロキサイトSC	フルキサム水和剤	29		収穫30日前まで	1回	200～700% /10a	散布		2000倍		2000倍		
キウイフルーツ	ベルコート水和剤	イミノカタシナルベシル酸塩水和剤	M7		収穫前日まで	5回以内	200～700% /10a	散布		1000倍		1000倍		
キウイフルーツ	ベント水和剤	ベニミル水和剤	1		収穫7日前まで	5回以内	200～700mL/m ²	散布		2000倍				
キウイフルーツ	ムッシュボルト-DF	銅水和剤	M1		-	-	200～700% /10a	散布	1000倍					
キウイフルーツ	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		開花期～落花期	4回以内	200～700% /10a	散布				1000～1500倍		
					収穫前日まで	4回以内	200～700% /10a			1000～1500倍				

使用時期：【A】発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで、【B】剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

使用量：【a】棚上の樹冠面積10㎡当り3%、以降、樹冠面積が10㎡増す毎に1%追加

キウイフルーツ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）			
									カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	カメムシ類	キイロマイカ
キウイフルーツ	アテ・イオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		収穫7日前 まで	5回 以内	200～700g /10a	散布			2000倍	2000～ 3000倍
キウイフルーツ	アブ・ロード水和剤	ブ・プロフェジン水和剤	16		収穫前日 まで	2回 以内	200～700g /10a	散布		1000倍		
キウイフルーツ	アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		収穫前日 まで	3回 以内	200～700g /10a	散布			1000～ 2000倍	
キウイフルーツ	スカウトフロアブル	トラメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日 まで	5回 以内	200～700g /10a	散布				1500～ 2000倍
キウイフルーツ	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		収穫前日 まで	3回 以内	200～700g /10a	散布			1000～ 2000倍	
キウイフルーツ	ダントツ水溶剤	クロチアジン水溶剤	4A		収穫前日ま で	3回 以内	200～700g /10a	散布			2000～ 4000倍	
キウイフルーツ	パダンSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	収穫30日 前まで	3回 以内	200～700g /10a	散布				1500倍
キウイフルーツ	フェニックスフロアブル	フルバ・ンジ・アミド水和剤	28		収穫7日前 まで	3回 以内	200～700g /10a	散布				4000倍
キウイフルーツ	マブリック水和剤20	フルバ・リネート水和剤	3A	劇	収穫7日前 まで	2回 以内	200～700g /10a	散布				2000倍
キウイフルーツ	モスビラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	収穫7日前 まで	3回 以内	200～700g /10a	散布	2000倍			